

世界の恵まれない子供達に学ぶ機会を！ 学ぶ喜びを！

SCOLA

Vol 14

認定 NPO 法人 LS スコラ育英基金

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-25-15

Tel & Fax : 03-3428-8307

E-mail : scola_japan@yahoo.co.jp HP : <http://scola.web.fc2.com/index.html/>

郵便振替番号 : 00100-0-767496 特定非営利活動法人 LS スコラ育英基金

〈新年にあたって〉

新年あけましておめでとうございます。この一年間ご支援をいただきました皆様方に、厚く御礼申し上げます。

昨年、世界各地で異常気象による前例のない大洪水、干ばつ、森林火災で、住んでいる土地を離れざるを得なくなった「気候難民」がクローズアップされました。加えて、ウクライナやガザなどからは連日目を覆いたくなるような悲惨な光景が伝えられ、「武力紛争による難民」が深刻な問題となっております。多くの NGO や NPO から支援の呼びかけがなされておりますが、LS スコラ育英基金では、一昨年に続き昨年も軍事政権によるミャンマー国内の避難民に対する緊急支援を実施いたしました。現在ミャンマーは国際社会からテロ対象地域に指定されており、国際的な援助は許可されないか、制限されており、資金や物資を現地に届けることが難しくなっておりますが、様々な方法で食料、医薬品、学習資材などを現地に届けているミャンマーや他の地域のラ・サール会の皆さまの献身に心から感謝申し上げます。

また、10月に発生したイスラエルとハマスの紛争は、国家の存立・土地の領有をめぐるものとして、2000年以上前から続くディアスポラ（民族離散）や第二次世界大戦後の場当たりの国際社会の対応に起因するものであり、根が深く、解が得にくい問題ではありますが、憎悪や暴力ではなく、対話を重ね、難しいけれど相手の立場になって「共感」しあい、共存することで、一日も早い事態の解決と平和な社会の実現を祈ります。そして、私たちは今何を為すべきなのか、皆様からいただいたご寄付をどう支援に活かしていこうか考えながら、来年度の事業計画を立案したいと思っております。その中であって、奨学金を支援してきた仙台ラ・サール・ホームの学生から、今春大学を卒業し希望する就職先が内定した喜びとこれからの希望、当基金に対する感謝のメッセージが届いたことは大きな喜びであります。

ところで、私たちの活動も NPO 法人化してから、今年で 16 年目、前身から通算すると 22 年目に入りますが、当法人を支援してくださっている方々の高齢化が進み、年々資金集めには工夫が必要となっていることに加え、活動の担い手も高齢化が進んでおります。そうした中、私たちの活動をより多くの方に知っていただくべく、広報媒体の多様化に合わせて、今般動画（YouTube）による配信を始めることとなりました。1 月末リリースを目指して、準備を進めておりますが、従来の広報誌「SCOLA」やホームページと合わせて多くの方々に視聴していただき、感想やご意見を賜りますように、引続き、皆様方のご支援を是非ともよろしく願い申し上げます。皆様にとって、希望にあふれた 2024 年となりますようにお祈りいたします。

（理事長 宇野哲人）

<国内の支援活動に関連して>

1. 奨学金受給者からのお便り

Aさん（私たちが初めて支援した奨学生。国立大学を卒業し、この春就職予定です。）
奨学金は、大学の授業の教科書代や研究の際にかかる費用の補填として使わせていただきました。学年が上がるにつれて、どんどん学習難易度が上がってきましたが、必死にくらいついていくことが出来ました。卒業研究やアルバイト等の両立が難しかったです。何とか無事に第一志望の市役所に内定をもらうことが出来ました。これまで4年間に渡り、奨学金をくださり本当に感謝しております。この恩をお返し出来るように、役所の職員として懸命に働いていきたいと考えています。本当に有難うございました。

Bさん（2回目に支援した奨学生。看護師を目指し、頑張っています。）
新学期が始まり、勉強の内容も難しくなってきた、どのような看護師になりたいかも明確になってきました。私は、緩和ケア病棟に勤めてみたいと思っています。その希望を叶えるために日々勉強に励み、国家試験に合格できるように頑張ります。日常生活では毎日自炊をすることが楽しいです。毎日健康的な生活を送れるように早寝早起きと健康に気を付けた食生活を送っていきたいと思います。この度は、ご支援いただき有難うございました。

2. 児童養護施設出身者等に対する様々な支援の動き（新聞記事等から抜粋）

- ① 児童養護施設の生徒などの受験費用を支援へ 1人当たり 20万円
経済的に困難な状況にある児童養護施設の生徒などを支援しようと、日本学生支援機構は入学前の受験にかかる費用を支援する制度を新たに設けることを決めました。
- ② 養護施設の子もスマホ持ちやすく 生活環境の改善へ、こども家庭庁検討
児童養護施設で暮らす子どもたちの生活環境を改善するため、こども家庭庁は、スマートフォンを所持しやすくする整備に乗り出す。施設側への財政支援も含めて検討する。
- ③ （こどもの居場所どこに？）施設を巣立っても、孤立させない
児童養護施設や里親家庭など「社会的養護」下で育ち、巣立った若者は、一人暮らしや仕事を始めてから孤独を抱えることがある。そんな仲間のためにと、社会的養護出身の若者が集まり、全国の相談先をまとめたサイトをつくった。「頼れる先」につながってほしい――。そんな願いを込めて活動している。

3. この春の大学など進学予定者

この春に大学等に進学を予定している者は2名とラ・サールホームから伺っています。



この2枚の写真は La Salle Foundation から贈られて来た小冊子に載っている子供たちです。
La Salle Foundation の活動内容は lasallefoundation.org の [who we are>about us>annual report](#) をご参照ください。

<海外の支援活動に関連して>

1. 昨年5月に2回目の支援をしたミャンマー・プロジェクトの概要抜粋(和訳)

このプロジェクトは、食糧（米、油、塩、子供の栄養）、基礎薬（風邪、下痢、かゆみ止めなど）、シェルター関連の物資（ターポリン、ロープ、蚊よけなど）の配布を継続することを目的としています。避難民に必要です。また、キャンプの子供たちが組織化された学習活動を行うのを支援するための教材を要求したいと思います。これにより、これらの若者が学習ルーチンを回復し、教育を継続できるようになります。これらのアイテムには、本、筆記用具、学習支援オーディオ、タブレットまたは電話によるビデオが含まれます。これらは、ソーラーまたはその他の電源による電力の利用可能性に応じて異なります。お願いしたい予算は20,000米ドルです。私たちは、特定された3つの州のそれぞれに資金を割り当てており、必要としている人々への意図した援助の配布を管理するために、現地で直接連絡を取り合っています。

2. ミャンマーに関する支援の動きや国民の気持ちなど(新聞記事等から抜粋)

① ミャンマー人の学校 日本がお金を出して新しい建物ができた

タイのパンガー県には、ミャンマーから引っ越してきた子どものための学校があります。しかし、2年前にミャンマーでクーデターが起こってから、タイに逃げてくる子どもが増えて、教室が足りなくなりました。学校の新しい建物を作るため、日本の政府は約1300万円を出しました。そして今月、建物ができたお祝いの式がありました。

② 子どもたち、助けたい ミャンマー戦闘地域から日本の看護学科へ

国の将来を担う子どもたちを、一人でも多く助けたい――。そんな思いで今月、ミャンマーから1人の女性が来日し、富山県にある短期大学の看護学科に入学した。彼女が生まれ育ったのは、クーデターで権力を握った国軍による空爆で多数の死傷者が出ているミャンマー北西部のザガイン管区だ。

<ローマのラ・サール会からのクリスマスカード①>

ローマの La Salle Foundation からクリスマスカードが届きましたのでご紹介します。

On behalf of the La Salle Foundation team, I extend my sincere gratitude for your collaboration throughout the year in empowering opportunities for disadvantaged children and youth, through education. Enclosed is a small token of gratitude for your unwavering support. May it stand as a heartfelt reminder during this holiday season of the remarkable achievement we have accomplished together.

Merry Christmas and Happy New Year!



Angela Matulli Executive Director

ラ・サール財団チームを代表して、教育を通じて恵まれない子供たちや青少年に機会を与えるための年間を通じてのご協力に心から感謝いたします。皆様の変わらぬご支援に対するささやかな感謝の気持ちを同封させていただきます。この時期に、私たちが共にしっかりと達成してきた素晴らしい成果を思い出させるものとなりますように。

メリークリスマスそして新年明けましておめでとうございます！アンジェラ・マトゥリ 常務理事

2023年度（1-12月）に寄付してくださったのは以下の方々でした（敬称略）

安立健明,穴澤龍治,有馬俊英,安藤進,伊井和枝,池田博行,池田隆二郎,池見清志,伊佐治寿彦,伊地知正光,井出隆,伊東祐久,井上功,岩元修士,内田正隆,宇野哲人,海川敏雄,梅北正史,浦田真吾,江口憲治,江畑浩之,大川伸一,大坂恒悦,大迫徳郎,大原信司,岡田利雄,小田紘史,小田原良治,海江田博士,笠松秀樹,加藤英行,金蔵拓郎,金丸秀樹,賀本敏行,川井田浩,川上博人,川手正紀,川原光徳,神原芳彦,菊地裕太郎,北川朗,北本達也,木下敏之,工藤元哉,久野幸雄,隈部敏郎,倉津一壽,黒川明,黒木秀敏,桑原新一,高栢智彰,古賀信行,小坂彰洋,小城和正,小林寛重,紺野晃則,財津昭憲,齊野公志,酒井公平,酒井伸一郎,坂井毅,櫻井利雄,桜井淳夫,佐藤正吉,佐藤仁宣,佐藤秀樹,佐藤祐一,鮫島庸一,鮫島由規則,椎原芳美,重信和男,品田義雄,白土宏之,菅野剛造,鈴木正英,園田勝男,大尾俊博,大徳眞一,高木鉄平,高木学,高橋智,田上桂作,竹田和義,武田敏文,田中俊博,田中宏明,谷山啓一,田原浩,玉木康博,津田俊二,出口亨,寺田道雄,徳勝礼子,徳盛誠,鳥越重二,中井洋,中江次郎,中川原讓,中越讓,永田洋二,中西徹明,中野伸也,中原善朗,中村勝洋,中村誠洋,中村知史,中村稔,成田昭浩,西立野研二,新田栄作,新田周作,新田莊作,根本浩一郎,蜂須賀一寿,馬場俊英,浜崎和朗,林完自,原口和貴,針間博彦,春本常雄,姫野信吉,平川憲生,深江方次,福岡一郎,藤井晶衛,藤瀬裕司,藤津史朗,古川貴久,堀切尚,牧本三夫,松井謙明,松岡英亮,松崎潤一,松下洋一郎,松島誠也,松田孝,松原俊生,三浦聡雄,水間信寿,道岡伸一郎,満岡渉,宮下幸一郎,宮脇一郎,村上洋一郎,村野一郎,本寺大志,本山嘉正,森莊太郎,森俊雅,矢野讓,山下達治,山村延郎,山元正博,吉井満寛,吉田昌之,吉永和久,米澤大,ワキタツオ,和田豊郁,匿名希望2名（以上161名）

☆ 池見清志様、大徳眞一様のご冥福をお祈りいたします。

☆ ワキタツオ様の消息をご存じの方は事務局までご連絡ください。

<ローマのラ・サール会からのクリスマスカード②>



<編集後記>

- ・2023年度のご寄付に対し、あらためて感謝いたします。寄付金控除に係る証明書を発送しておりますのでご確認ください。また、届いていない場合には事務局までご連絡ください。
- ・巻頭言でも触れましたが SCOLA では広報媒体の多様化を目指して動画広報（YouTube）の配信を企画しております。動画の内容等に関してご意見があればお寄せください。
- ・SCOLA では世田谷区にある SCOLA 事務局の移転を検討しています。都内で事務所として使用可能な場所をご存知の方は、事務局までご連絡くださいますようお願い致します。
- ・掲載して欲しい記事などがございましたら、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

（理事 紺野晃則）scola_japan@yahoo.co.jp